

令和7年度千鷲会定期総会及び懇親会が6月22日に開催された



懇親会開始の2時間前に令和7年度定期総会

令和7年度の定期総会は6月22日、ホテルグランテラス千歳で開催。前年の反省を活かし、懇親会の開始時間を2時間前倒しの16時に設定し、スムーズな進行を実現。総会では、昨年度実施された特別輸送機見学に関し、今年度は家族の同伴参加を可能にするよう基地側と調整する方向であることを報告。連絡手段に関するアンケートでは、メール等の利用が可

能と答えた会員は約3割にとどまり、当面は従来通り葉書等での連絡を継続する必要があるとされた。また、秋の懇親会は9月の航空祭との兼ね合いで見送りと決定。会員からは、基地入門証の申請手続きの簡素化を求める声も上がった。しかし、航空再稼働の指導では、「退職自衛官も退職後は一般市民である」との見解が基本とされており、現実的には困難であるが、引き続き基地へ要望していく方針が示された。さらに、千歳空港100年記念

事業における実行委員として、同じ実行委員である千歳基地が直接言い出しにくい事項について千鷲会が代弁する役割が重要との意見も出され、地元と基地をつなぐ存在としての役割が改めて強調された。

「営内手当・Wi-Fi環境整備!」驚きの懇親会

総会を終えた参加者たちは、ロビーのあちらこちらで小さな輪をつくり、久しぶりの再会を喜び合っている。四方山話を花を咲かせていた。懐かしさと安堵の笑顔がロビーに広がり、これから始まる懇親会の温かな幕開けを予感させた。

理解と協力に感謝を述べたうえで、直前に実施された平成7年度定期総会において例年と同規模の事業計画が承認されたことを報告。続けて、中東地域や日本周辺の安全保障環境が緊迫するなか、現職自衛官に求められる任務遂行能力の高度化に対応するため、千鷲会の果たす役割が一層重要になっていくとの認識を示した。

「への貢献につながる」と述べ、活力ある会の運営に向けた継続的な支援と協力を呼びかけて挨拶を締めくくった。

自衛官の処遇改善について

佐藤会長に続いて登壇した田中第2航空団司令は、基地内の生活環境整備と制度見直しについて報告。内務班へのWi-Fi整備や個室化、クレーターの設置完了、営外居住に関する制限の緩和、さらには営内居住者に対する「指定場所生活調整金(営内手当)」の支給開始など、勤務環境の改善に向けた

後半戦はお楽しみ抽選会

懇親会の後半には、イーグルホルム株式会社、ナイトサルーン・ウィーナス、基地売店会、そして細川会員らのご提供による豪華景品もとに、「お楽しみ抽選会」が開催された。

「営内であれば水道光熱費も風呂代もかからないのに、なんで手当が出るの?」「営外居住に関する制限が緩和されたからさ。給料を上乗せするから営内についてほしい」ってことだよ。「完全個室なんて、想像もできない話だった」「プライベートの保護ってやっだな」

「そんなやり取りに場が和み、続いて飛び出したのは、往年の訓練や実務を語る言葉の数々だった。「整備作業中に俺は、"バカ者! よく考えろ! お前の頭は帽子をかぶるためにあるんじゃない!"って怒鳴られたもんだ」「俺なんか基本操縦課程でちよつとミスったら、後席から"馬鹿野郎!"の声とハンドブックが飛んできたよ」「作業中にペンチやプライヤーだつて飛んできたけど、ドライバーは危ないから飛んでこなかった」

「でも何故か当たらないんだよな」「当たらないように投げたんだ」「今ならパワハラだ」

具体的な施策を丁寧に紹介した。処遇改善と面白い出話が交差する。参加人員70名による懇親会。そのあるテーブルでは、こんな会話が聞こえてきた。



次こそ自分の番号が呼ばれるのではと、内心では皆が息をのんで発表を待っていた。



田中司令によるルーレット方式の抽選会では、スクリーンに映し出される名前とともに拍手と笑顔が広がり、景品は司令自らの手で丁寧に手渡された。

最後は集合写真撮影

最後は恒例の集合写真の撮影が行われ、撮影者と参加者が軽妙な掛け合いを繰り返しながら、まるで即興漫才のような笑いに包まれて、意図的に何回もストロボを発光しながらシャッターが切られ、懇親会は、賑やかに幕を下ろした。

